

インフルエンザワクチン接種について

例年通り10月中旬から12月まで、インフルエンザワクチン接種を行います。

65歳以上の方	初回のみ1500円
一般の方	1回2500円

原則として、小学生までは2回接種、それ以外は1回接種となります。

インフルエンザウイルスとワクチン

インフルエンザウイルスは「A」、「B」、「C」の3型があり、毎年流行するのはA型とB型です。

構造としては、HA(ヘマグルチニン)とNA(ノイラミニダーゼ)という服とズボンを着ていて、この服とズボンを剥がして裸にしてしまうとウイルスは死んでしまいます。

ですから、この服とズボンに対する抗体をあらかじめ作ってやれば、インフルエンザは撃退できるわけです。

これがインフルエンザの不活化ワクチンです。

ワクチンの中にはウイルスの服とズボンだけが入っており、中身(ウイルス本体)が入っていないので、「不活化」といわれます。

みなさんがよく誤解されるのですが、ワクチンには中身が入っていないので、インフルエンザに弱く感染させるわけではありません。

弱く感染させるワクチンは「弱毒生ワクチン」と言います。

A型インフルエンザのHAはH1からH16までの16種類、NAはN1からN9までの9種類が確認されており、理屈では16×9で144種類のウイルスが存在するわけですが、このうち人に感染するのがH1N1(Aソ連型、A新型)、H1N2、H2N2(Aアジア型)、H3N2(A香港型)の4種類です。

一方、B型は1種類しかありません。

インフルエンザワクチンには今までH1N1(Aソ連型)、H3N2(A香港型)にB型の3種が入った混合ワクチンでしたが、2010年からはAソ連型に変わって、H1N1(A新型インフルエンザ)、A香港型、B型の3種混合になりました。

インフルエンザは同じ服やズボンでも柄が若干違うものが多数存在するので、A香港型やB型といっても、どの柄のウイルスが流行するのかを予測してワクチンは作られます。

新型インフルエンザは出たばかりなので、柄違いはまだありませんが、近い将来には柄違いが出現すると考えられます。

インフルエンザワクチンの有効性

インフルエンザワクチンを評価する際に、「有効率70%」という言い方がされます。

これは100人に接種して70人の感染を防ぐという意味ではありません。「ワクチンを接種せずにインフルエンザに罹患してしまった人に、もしワクチンを接種していたら、その内の70%は罹患せずにすんだ」という意味です。なぜこのような言い方をするかというと、ワクチンを接種していてもインフルエンザに罹患してしまう人もいるし、接種していなくても罹患しない人もいるので、その影響を除いた表現として、この有効率が使われています。

同様に、

- ・入院に対する有効率50%
(接種せずに入院した人が、接種していれば50%の人は入院せずにすんだ)
 - ・死亡に対する有効率80%
(接種せずに死亡した人が、接種していれば80%の人は死亡せずにすんだ)
- という結果が出ています。

しかし、有効率を誤解している場合が多いのです。例えば学校で500人の生徒がワクチンを接種して、50人が接種しなかったとします。この予防接種をしなかった50人のうち20%がインフルエンザに罹患したとすると、50人の20%で10人が罹患したことになります。この10人の生徒が、もしワクチンを接種していれば、有効率通りなら70%が予防できることになりますが、逆に言うと30%は接種していても罹患してしまうことになるので、10人中の30%…つまり全体で言うと6%(3人)は、接種していても予防できなかったことになります。この6%を接種した500人に当てはめると、500人の6%で30人は接種していても罹患したことになります。

罹患した数だけみれば、「30人」対「10人」となり、接種しなかった生徒の方が罹患した人数が少なくなります。数字のマジックみたいですが、これが学校でインフルエンザワクチンを打たなくなった理由の1つになってしまいました。

インフルエンザワクチンの副作用

ワクチンの副作用と疑われる死亡例報告は毎年数人程度ありますが、ほとんどは具体的にワクチンが原因だと確定できていません。それに比べて毎年10,000人程度の方がインフルエンザで死亡されています。軽い副作用としては、10~20%の人は注射した部位の腫れ、痛み、しびれなど、5~10%の人は頭痛、関節痛、さむけ、疲労感、めまい、吐き気・嘔吐、発熱、下痢などが出ます。

これらは2~3日もすれば回復するものです。しかし、ワクチンの製造過程では鶏卵を使用するので、卵アレルギーのひどい方の場合には、アナフィラキシーショックなどのアレルギー反応が出ることもあるので注意が必要です。

インフルエンザワクチンは世界的に有効性が認められているので、是非接種することをお勧めします。